

日	たんげん	終わったページにシールを貼ろう!
3年のふくしゅう	7ページ	
大きな数のしくみを調べよう	10ページ	
大きな数のしくみを調べよう	12ページ 13ページ 14ページ	
変わり方をわかりやすく書こう	15ページ 16ページ 17ページ 18ページ	
工夫して整理しよう(下巻)	24ページ 25ページ 26ページ	



感染症対策を徹底して学習会を実施

市内の小中学校で「学力アップ大作戦」を実施

学びたい子どもたちを応援する、地域ぐるみの取り組み

学校と地域が連携 子どもたちの学習を応援

市は、地域の力を生かしながら、子どもたちの学力向上を図る「学力アップ大作戦」を平成26年度から実施しています。市内83の各小中学校で、放課後や土曜日などに無料の学習会を開催。保護者をはじめ、地域の人たち、学校関係者などが構成される地域運営委員会が中心となって活動しています。

学習会では、市内共通の教材を基にしたプリントを使用。教科は、算数・数学と国語、社会、理科に加え、中学生は英語の勉強もできます。地域の人たちが、ボランティアで子どもたちの学習を支援します。

昨年度の学習会は、延べ1356回開催。延べ3万人



学習の進みに合わせてプリントを準備

を超える児童・生徒が参加しました。協力したボランティアは延べ約9000人に上ります。地域ぐるみで子どもたちの学習を支援する活動は、全国的にも珍しい取り組み。今後も、新型コロナウイルス感染症の状況に注意し、学習会を開催していきます。



次代を担う子どもたちのために。地域と一緒に取り組む学び場づくり

子どもたちの学ぶ力を育む 高崎の確かな教育力

全国の小中学生を対象に5月に実施した、国の全国学力・学習状況調査の結果が、8月に公表されました。本市の小中学校の成績は、都道府県や政令指定都市と比べても上位にあり、県や全国平均を上回っています。この背景には、子どもたちや教職員の頑張りはもちろん、市や地域の人たちによる、子どもたちの学ぶ力を育むためのさまざまな取り組みがあります。今回号では、地域の人たちの協力による学習支援や、市独自の英語教育、タブレット端末の授業での活用などについて紹介します。問い合わせは、学校教育課 (☎ 321-1293) へ。



全国学力・学習状況調査の結果が発表

高崎の小中学校は、調査科目の全教科で全国6位以内

全国学力・学習状況調査は、平成19年度から、義務教育の機会均等と水準の向上維持、学習状況の改善などに役立てることを目的に国が実施しているものです。今年度は、小学6年生を対象に国語と算数で、中学3年生を対象に国語と数学の各2教科でそれぞれ調査を行いました。

調査結果が国から発表され、報道機関の算出による順位に本市の正答率を当てはめると、小学生は2教科とも全国6位以内に、中学生は国語が全国1位、数学が2位に相当。本市は、全教科が全国で上位という結果が分かりました。

吉井西小学校のコーディネーターに聞きました



堀越 明美さん(左) 今井 美砂さん

吉井西小では、月・木曜日の放課後と土曜日に学習会を開催しています。ボランティアと協力しながら、子どもたち1人1人の学習速度や得意・不得意に合わせてサポート。明るい雰囲気づくりも心がけています。子どもたちに全力で勉強を楽しんでもらえるように、これからも工夫しながら頑張っていきます。

情報端末を活用し、子どもたちの学習を支援

1人1台のタブレット端末を全小中学校に配備



児童生徒に1人1台の情報端末を早期導入する、国の「GIGAスクール構想」。これを受けて市は、今年度から、市立の小中学校と特別支援学校に必要なタブレット端末約3万台を配備しています。端末の配備と併せて、ネットワーク環境の整備など、タブレット端末を学校で利用するための環境も整えました。

タブレット端末を使った授業がスタート

各学校では、タブレット端末を使った新しい形の授

業がスタートしています。授業では、意見や発表内容をクラス全員で共有したり、関連した情報をすぐに検索したりと、タブレット端末ならではの機能を活用。カメラ機能を使った実験の記録や、アプリを使った漢字学習なども行われています。休校中などもオンライン授業で、子どもたちの学習をサポートします。

市は今後も、タブレット端末を活用し、子どもたちの学びを後押ししていきます。

▶▶▶ 授業でタブレットを使っている南小学校6年生の児童に聞きました



原澤 美羽さん

気になる言葉をすぐに調べることができて、勉強が楽しくなりました



辻 宏将さん

みんなで使い方を教えて合って、すぐに操作できるようになりました

「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック in Takasaki」が開講

10月3日、中学生が発展的な数学の学習に取り組む講座「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック in Takasaki」が、市教育センターで開講しました。数学への興味・関心を高めることを目的に、市が平成24年から実施しているもので、今年度は市内の中学生77人が参加。講座は12月まで計6回開かれ、大学教授などが講師を務めます。

参加者からは、「自分とは違う解き方を知ることができた」「2回目の参加です。さらにレベルアップを目指したい」という声が聞かれました。



大類中学校のALTによる英語の授業風景

この日の1年生の授業は、英語教諭と一緒にALTのハンター・クリストファーさんが担当。「子どもたちが英語に興味を持てるよう、映像を流したり、ジョークを言ったりと工夫しています」とクリストファーさん。子どもたちも「クイズなどで楽しく勉強できる」「もっと話せるようになりたい」と、英語の授業を楽しんでいます。

市は、子どもたちが英語に親しめる教育環境を整えています。平成29年以降、市内83の全小中学校にネイティブスピーカーのALT（英語指導助手）を配置。各ALTは、担任の教員らと連携して授業を行います。英語を母国語とするALTと触れ合い、生きた英語を学ぶことで、子どもたちは自然と高い英語力を身に付けることができます。人口30万人以上の都市で、全校にALTを配置している例はほとんどありません。また、小学校の英語教育は3年生から必修となっており、本市は1年生から授業をスタート。低学年からネイティブの生きた英語に慣れ親しむことで、高い英語力を養うことが期待されます。市は英語教育を通じて、子どもたちの国際感覚を育んでいきます。

生きた英語を子どもたちに

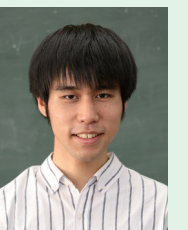
中学生向けに無料の学習相談を実施しています

中学生を対象にした、無料の学習相談「休日学習相談ステーション」。教員経験者や大学生のボランティアが、数学と英語に関する質問や相談を受け付けます。開催日時は日曜日の午後1時30分～4時30分、会場は8つの公民館と市教育センターです。自習の場としても利用することができます。

この「学ステ」を利用した生徒からは「周りの生徒が集中しているので、学習意欲が高まる」「分からないところを丁寧に説明してくれるので、解ける問題が増えた」などの声が届いています。

相談を受けるボランティアの学生に聞きました

中央公民館で数学を担当しています。相談を受けたら、分からないところをよく聞いて、丁寧に説明することを心がけています。相談ステーションは、時間内であればいつでも利用できます。気軽に勉強しにきてください。



滝沢 宙夢さん
高崎経済大3年

ALTの全校配置で英語力を向上

小学1年生から英語に親しむ、本市独自の英語教育